

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館は、東京都とともに、オリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げる「Tokyo Tokyo FESTIVAL」を展開しています。



東京都現代美術館

ライゾマティクス_マルチプレックス

rhizomatiks_multiplex

2021年3月20日（土）— 6月20日（日）

2021年に設立15周年を迎える rhizomatiks（ライゾマティクス）の個展を開催いたします。

ライゾマティクス（以下、ライゾマと表記）は、設立以来、常に人とテクノロジーの関係を探求しています。世界的に活躍するアーティストであるビョーク、スクエアプッシャー、Perfume、狂言師・野村萬斎や研究者らとのコラボレーションに加え、多様な視覚化や問題提起型のプロジェクトを通して、技術と表現の新しい可能性を追求してきました。斬新なインパクトを持つその時間／空間的表現は、国際的に高い評価を得ています。本展は、ライゾマの美術館における初の大規模個展となります。オンライン上にもハイブリッドに展開する新作やアーカイブを通して、絶え間なく変化する世界と同期する彼らの卓越した試みを複合的（=multiplex）に呈示します。

ライゾマによる表現活動は、いわゆる「メディアアート」の領域を超えて、データの視覚デザインなどの研究開発的要素や、建築、デザイン、広告やエンターテインメントなどのビジネスに及び、社会に影響を与える力を持っています。彼らはアイデア、ハード／ソフト開発からオペレーションに至るまでチームが一貫して取り組むフルスタック集団であり、アーティスト、プログラマーや研究者をメンバーに含んでいます。変化しやすい複雑で曖昧な現代において、私たちの身体はバーチャルとリアルの間で揺れ動いています。そして、大量情報化社会の中で見えないものをどのように把握し理解するか、リアルな接点を探しています。ライゾマは、これらの状況に対してさまざまな角度からアプローチしてきました。例えば、多様な国際的パフォーマンスとのコラボレーションでは、テクノロジーとフュージョンする新しい身体のヴィジョンを創出し、「リサーチ」として行った脳科学者や天文学者など科学者・研究者とのコラボでは、データの可視化によって見えないものへのリーチを可能にしています。

本展では、美術館における初の大規模個展として、彼らが展開してきた領域横断的なクリエイションを展望するとともに、「現在」とクリティカルにシンクロする新作プロジェクトが展示されます。デジタルなネットワーク社会の中であって、新しい人間性（ヒューマニティ）の可能性と、未知の視覚ヴィジョンを追求するライゾマの魅力を伝える展覧会となります。ポスト・コロナの社会において、世界がオンライン化を求められ、人間としてのコミュニケーションのあり方についての新しい可能性が問われています。その渦中であって、多くのプロジェクトや技術提案を実践しているライゾマが、2021年春、変化し続ける世界における「新しいアーティストの役割」を見せる試みです。

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL：03-5245-1134（直通）/ FAX：03-5245-1141

E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp URL：https://www.mot-art-museum.jp

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

展覧会のみどころ

1 データの視覚化

VUCA(変化しやすい、不確実、複雑、曖昧)な現代社会の出来事を捉え、翻訳共有することはアートの重要な役割です。ネットワーク上の不可視な事象を、感情やデータをテーマに可視化するインスタレーションを呈示します。

2 フィジカルパフォーマンス、未知の身体の創出

ELEVENPLAY や Perfume とのコラボレーションなど、秀逸なビジュアルデザインとプログラミングによって生成される身体パフォーマンスを、動きや空間と観客とを結びつけるメディアに変容させ、未知の身体を創出させます。

3 ソーシャルディスタンスのためのシステム

緊急事態宣言以前よりライゾマが取り組んできた「Staying TOKYO」や、リアル空間と同じ音や距離感覚の再認識をもたらす「Social Distancing Communication Platform」等のソーシャル・プラットフォームを紹介します。

4 ハードウェアと映像、インタラクションの共存するインスタレーション

ハードウェアの制御とプログラム、ロボットを用いた空間的な新作など、オンラインだけでもオフラインだけでも成立しえない、バーチャルとリアルの領域を往来するハイブリッドなインスタレーションを構築します。

5 新作やアーカイブを含む、現代に対するクリティカルな提言

SNS を通じて集められる個人データの問題、ボーダーという概念から「入会地—コモンズ」への考察、機械学習によって成立する観客参加作品など、メイキングやアーカイブ展示を含め、クリティカルな提言を試みます。

関連イベント等

会期中に、トークや双方向性の参加型イベントなどの開催を予定しています。

※詳細は当館ウェブサイトで順次公開いたします。ご確認の上ご参加ください。

※事情により内容変更となる場合があります。予めご了承ください。

展覧会概要

会期	2021年3月20日(土) - 6月20日(日)
休館日	月曜日(5月3日は開館)、5月6日
開館時間	10:00 - 18:00(展示室入場は閉館の30分前まで)
観覧料	一般 1,500円 / 大学生・専門学校生・65歳以上 900円 / 中高生 500円 / 小学生以下無料 ※予約優先チケットあり
会場	東京都現代美術館 企画展示室 地下2F
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館
助成	令和2年度文化庁優れた現代美術の国際発信促進事業
協賛	ブルームバーグ L.P.
協力	株式会社ライゾマティクス ほか
企画	東京都現代美術館 参事 長谷川 祐子
担当学芸員	事業企画課 企画係 森山 朋絵



同時開催

企画展「マーク・マンダース」、コレクション展「MOT コレクション 第3期 コレクションを巻き戻す」

「Tokyo Contemporary Art Award 2019-2021 受賞記念展」

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL：03-5245-1134(直通) / FAX：03-5245-1141

E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp URL：https://www.mot-art-museum.jp

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

広報用画像 *すべて参考図版です。



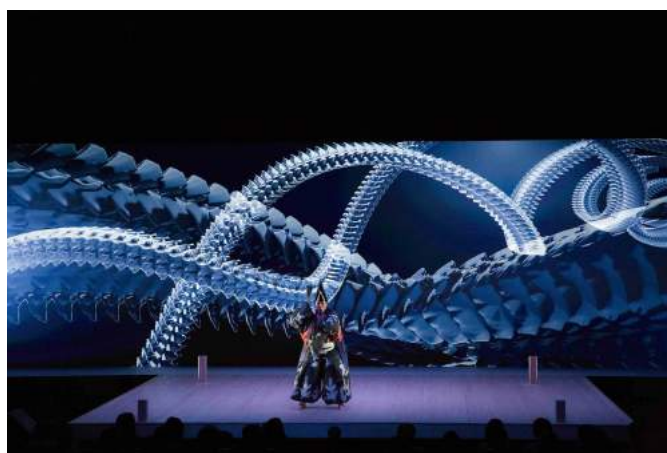
1 Daito Manabe + Yusuke Tomoto + 2bit 《chains》2016年
Exhibition view: "GLOBALE: New Sensorium - Exiting from Failures of Modernization"
Courtesy of ZKM | Karlsruhe
Photo by Tobias Wootton and Jonas Zilius

Bitcoinの自動取引を行うソフトを開発し、取引の様子を可視化・可聴化したインスタレーション



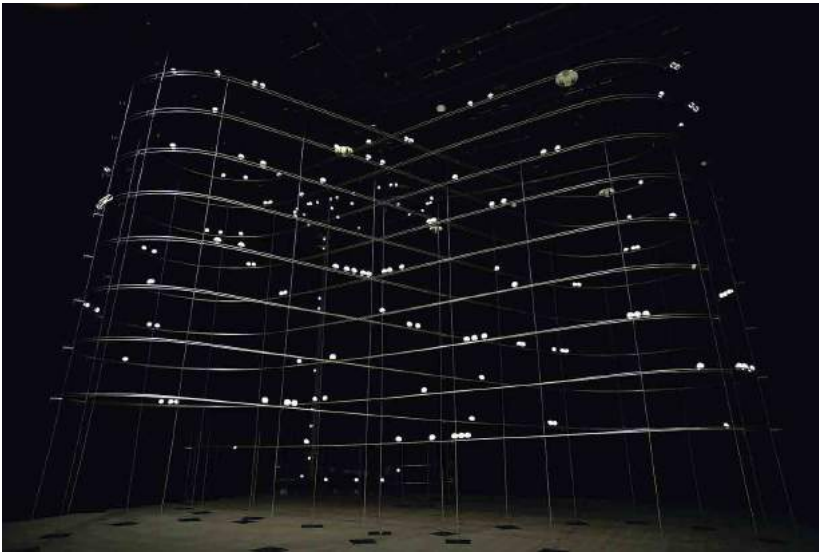
2 坂本龍一 + 真鍋大度
《センシング・ストリームズー不可視、不可聴》2014年
札幌国際芸術祭2014での展示風景
撮影：木奥恵三
提供：札幌国際芸術祭実行委員会

坂本龍一と真鍋大度が初めて協働した作品。鑑賞者が指定した波長の電磁波を可視化・可聴化した



3 野村萬齋 × 真鍋大度 《FORM》2017年1月2日～3日
東京国際フォーラム
©Hiroyuki Takahashi / NEP

狂言師・野村萬齋と真鍋大度による「三番叟」。野村萬齋の動きを3Dスキャン、モーションキャプチャ、機械学習技術でデータ収集し、高次元のデータを2次元、3次元に低次元化してリアルタイムで映像に変換した



4 Daito Manabe + Motoi Ishibashi
 《particles》2011年
 Courtesy of Yamaguchi Center for Arts and Media
 [YCAM]
 Photo: Ryuichi Maruo (YCAM)

構造物の中を走るボールの位置情報を用いてLEDを点滅させ、空中に立体映像を作り出すインスタレーション。2011年アルスエレクトロニカ 準グランプリ受賞



5 Perfume 《Reframe 2019》2019年
 撮影：上山陽介

Perfumeの活動の中で作られた映像、音声、振付、歌詞のデータを解析し新たな視点から再構築したコンセプトライブ。2020年に映画化、劇場公開された



6 Rhizomatiks Research × ELEVENPLAY × Kyle McDonald
 《discrete figures Special Edition》
 2019年10月6日 札幌文化芸術劇場 hitaru
 主催：札幌文化芸術劇場 hitaru (札幌市芸術文化財団)・ライゾマティクス
 ©kenzo kosuge

ELEVENPLAY × カイル・マクドナルドとの共作。AI、機械学習を通じて身体と運動を捉え直す先鋭的なダンスパフォーマンス作品

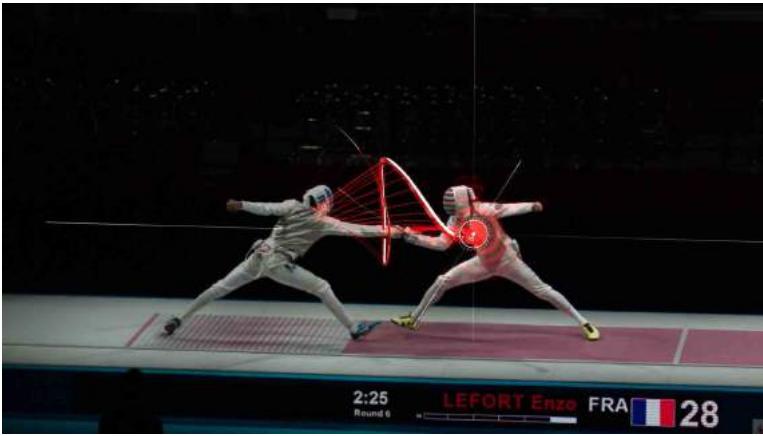


7 Rhizomatiks Research × ELEVENPLAY 《border》2015年
 photo by Muryo Homma

MR(複合現実)技術とモビリティ技術を駆使し、リアルタイムのダンサーとバーチャルなデータ上のダンサーがシームレスに移り変わり、リアルとバーチャルの境界を鑑賞者が認識できなくなる体験型ダンス作品

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤
 TEL：03-5245-1134 (直通) / FAX：03-5245-1141
 E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp URL：https://www.mot-art-museum.jp

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。



8 「Fencing Visualized Project」 2013年～
H.I.H. Prince Takamado Trophy JAL Presents Fencing World Cup 2019
ライゾマティクス_マルチプレックス展 参考図版

太田雄貴選手(当時。現・日本フェンシング協会会長)、Dentsu Lab Tokyoと協働し、ライゾマティクスが開発したAR技術、機械学習技術を用いてフェンシングの剣先の軌跡を可視化するプロジェクト



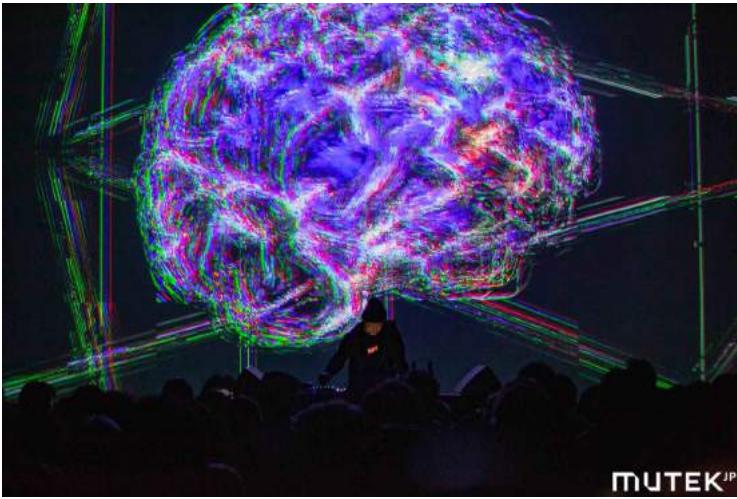
9 Squarepusher 《Terminal Slam》 2020年

架空のMR(複合現実)グラスを用いて街中から広告を排除するというコンセプトのもと制作した真鍋大度監督のMV。2020年アルスエレクトロニカ佳作入賞



10 ライゾマティクス「Staying TOKYO」2020年
Online event by Rhizomatiks

《Social Distancing Communication Platform》プロトタイプ画面。オンラインコミュニケーションのウェブプラットフォームを開発し、視聴者を招いて実施した実証実験風景



11 Daito Manabe + Kamitani Lab
《dissonant imaginary》2019年
Performance view at MUTEK.JP 2019

京都大学 / ATR の神谷之康研究室が開発したブレインデコーディング技術を用いて音楽を聴いた際に頭の中に浮かんだイメージを予測し、映像に変換したパフォーマンス、インスタレーション作品



12 ライズマティクス 《Oscillation》2016年
Photo by Muryo Homma

日本精工株式会社 (NSK) のボールねじと紐を使い、通常3DCG映像で行われる視覚表現を実空間上に作り出した



13 ライズマティクス 「2045×LIFE PAINT Supported by VOLVO CAR JAPAN」
2016年 Photo by Muryo Homma

真鍋大度とQosmoの徳井直生がオーガナイズする、音楽とテクノロジーの未来を実践を通して考えるイベント「2045」で、「LIFE PAINT」を用いたライブインスタレーションを開催



14 ライズマティクス
「Lucid Motion by Daito Manabe × Rhizomatiks Research」2019年

ワシントン D.C. で開催された「Lucid Motion」展にて、身体表現を多面的に捉えたインスタレーション

画像請求書

広報用図版として14点をご用意しております。掲載ご希望の方はお手数ですが本請求書に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにてご連絡ください。なお、写真の使用に際し、キャプションは、作家名、作品名、制作年、コピーライト等を必ずご表記ください。作品のトリミング、編集、文字載せはお控えください。本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正原稿をお送りいただき、掲載後には、掲載誌(紙)、HPリンク、DVD、CD等を広報班宛てにお送りください。

媒体名：	発売・放送予定日：							
種別：	TV	ラジオ	新聞	雑誌	フリーペーパー	ネット媒体	携帯媒体	その他
御社名：	ご担当者名：							
Eメールアドレス：								
ご住所：								
TEL：	FAX：							

ご希望の図版番号に印をお付けください。

- 1 Daito Manabe + Yusuke Tomoto + 2bit 《chains》2016年
Exhibition view: "GLOBALE: New Sensorium - Exiting from Failures of Modernization"
Courtesy of ZKM | Karlsruhe Photo by Tobias Wootton and Jonas Zilius [参考図版]
- 2 坂本龍一 + 真鍋大度 《センシング・ストリームズ-不可視、不可聴》2014年
札幌国際芸術祭2014での展示風景 撮影：木奥恵三 提供：札幌国際芸術祭実行委員会 [参考図版]
- 3 野村萬斎 × 真鍋大度 《FORM》2017年1月2日～3日 東京国際フォーラム ©Hiroyuki Takahashi / NEP
[参考図版]
- 4 Daito Manabe + Motoi Ishibashi 《particles》2011年
Courtesy of Yamaguchi Center for Arts and Media [YCAM] Photo: Ryuichi Maruo (YCAM) [参考図版]
- 5 Perfume 《Reframe 2019》2019年 撮影：上山陽介 [参考図版]
- 6 Rhizomatiks Research × ELEVENPLAY × Kyle McDonald 《discrete figures Special Edition》2019年10月6日
札幌文化芸術劇場 hitaru 主催：札幌文化芸術劇場 hitaru (札幌市芸術文化財団)・ライゾマティクス
©kenzo kosuge [参考図版]
- 7 Rhizomatiks Research × ELEVENPLAY 《border》2015年 photo by Muryo Homma [参考図版]
- 8 「Fencing Visualized Project」2013年～ H.I.H. Prince Takamado Trophy JAL Presents Fencing World Cup 2019
ライゾマティクス_マルチプレックス展 [参考図版]
- 9 Squarepusher 《Terminal Slam》2020年 [参考図版]
- 10 ライゾマティクス 「Staying TOKYO」2020年 Online event by Rhizomatiks [参考図版]
- 11 Daito Manabe + Kamitani Lab 《dissonant imaginary》2019年 Performance view at MUTEK.JP 2019
[参考図版]
- 12 ライゾマティクス 《Oscillation》2016年 Photo by Muryo Homma [参考図版]
- 13 ライゾマティクス 「2045×LIFE PAINT Supported by VOLVO CAR JAPAN」2016年 Photo by Muryo Homma
[参考図版]
- 14 ライゾマティクス 「Lucid Motion by Daito Manabe × Rhizomatiks Research」2019年 [参考図版]

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL：03-5245-1134 (直通) / FAX：03-5245-1141

E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp URL：https://www.mot-art-museum.jp

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。